

(その4)

工場又は事業場の名称	J F E スチール株式会社 東日本製鉄所(千葉地区)
------------	--------------------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策
(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度					
	平成12年度					
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	1	3	0	0	0	0
排出等の量 (kg/年度)	1	5	0	0	0	0
処理回収率 (%)	88					

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)					
---	--	--	--	--	--

備考

- この項の提出は任意であること。
- 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
- 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{使用量} - \text{排出等の量}) / \text{使用量} \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2 9	3 9	5 4							

その他(19、29、39、49、59、99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

<対策1について> ドア部からのガス漏れが発生した際には、迅速にガス漏れを抑止する応急処置を行うことができる体制を構築、継続的に実施しております。
<対策2について> コークス炉のドアフレームを更新し、①ドアとフレームの間のソフトパッキン化、②炉体とフレームの間のライナー調整により密着性を向上させ、ドアからのガス漏れを抑制しました。
<対策3について> コークス炉装炭時のガスの安定燃焼のために装炭車内の燃焼装置を点検し、正常動作を確認しております。

備考 この項の提出は任意であること。